

# ものづくりの極意

(MKds 流心得)

## 1) 超ポジティブシンキングのすすめ (意識)

あきらめない、おちこまない、へこたれない

建築のものづくりは、社会事情、経済事情、行政の指導、依頼者の都合など様々な制約の中、行われます。ひとつひとつ課題をクリアしながら地道に進めていく作業です。理不尽なこと、個人の力では及ばないことが沢山あります。いちいち反応しては肉体的精神的に持ちません。どのような状況でも、より良いものをつくろうという意識をキープしながら活動することが要です。

## 2) 常に問題意識を持ち考える (思考)

今ある物事を疑ってみる。物事の本質を捉える。

情報化社会になり、専門家と一般の方の情報量の境界があいまいになっている時代。私たちプロは、情報のうわべに流されないものづくりを行うべきです。ではどうすれば良いのか。それには自分の視点 (フィルター) を持ち、常に問題意識をもって見ること。そして物事の本質を捉え、判断、決断することです。

## 3) 好奇心を絶やさない (受容)

好き嫌いではなく、人、もの、ことから、何でも受け入れる。

世の中には、様々な価値観の方がいます。こだわる部分も人それぞれ。建築の生業は、一人の力では何一つ出来ません。依頼者との出会い、審査機関に許可をもらうことに始まり、職人さんに頑張ってもらう。更に地域社会の理解を得て行く必要があります。どんな方とも話が出来き、聞くことが出来る人間像が求められます。それには、何事も好奇心を持って取り組むこと。

## 4) 積極的に動いてみる (行動)

人に会う、刺激を受ける、人を助けて、助けられるように

まず、さっと行動出来ることが大事です。じっくり考える、深くほり下がることはあたりまえですが、時には自分の中だけで堂々巡りの思考からは脱しましょう。手を動かしてみる、出かけてみる。人生に無駄なし。ご縁はいつも大切に。

## 5) 人間の器を広げる (目標)

その人の創るものは、その人を超えない

これが最大の目標です。著名な建築家、世界で活躍する建築家に共通するものは、これに尽きると考えます。建築の世界は、センスよくデザイン出来るだけではダメです。人に社会に認められるのは、かたちでもセンスでもなく最終的には、その人の生き方そのものなのです。